

令和3年度 矢板市学校支援ボランティア講座通信

# できることから



## 現場でボランティア活動を見学！・・・実践？！

「百聞は一見に如かず」令和3年7月15日、第2回矢板市学校支援ボランティア講座では、川崎小学校でボランティア活動の現場を実際に見学させていただきました。授業は5年生の家庭科。ティッシュポーチを針と糸を使って作る授業。そこにボランティアとして入る「創年大学ぶらぶらクラブ」のみなさんの活動する姿をから学ばせていただきました。

子どもたちの動きやボランティアの方の働きかけ方など、「本物」からしか味わえないものを受講生はそれぞれに真剣に受け止め、考えを深めていました。

後半になるにつれて、子どもたちから無言の助けを求められた受講生の何人もが自然とサポートに入る場面も見られるなど、経験者も初心者も子どもたちと近いところで学ぶ良い機会にもなりました。



授業後は、それぞれの感想などを仲間と共有し、最後に増淵直嗣（ますぶちなおつぐ）校長先生よりお話をいただきました。ボランティア活動によって教育的効果が大きくなることを改めて実感しました。

第3回・4回は「プログラミング教育」に挑戦する予定。「できることから」の精神で、挑戦してみたいくつになっても「やればできる」自分に出会える講座になればと思います。

### 創年大学ぶらぶらクラブって？

矢板市内の小学校を中心に、ミシンボランティアや校外学習引率など多くの学校支援ボランティアを行っている。様々な経歴をもつ方々が、退職後に市民大学で学んだことを活かして地域おこしに尽力されている。竹とんぼやコマ回しなどの昔遊びの伝承や地域の環境整備にも積極的に取り組んでいる。

ぶらっと集まり、解散する

見返りを求めないボランティア哲学

いつでも新しいことを学ぶ姿勢

秋祭りでサンマを焼いていた人たち





川崎小学校の増淵直嗣校長先生は、この地区の教育行政で長く生涯学習を推進されてこられた方。学校の先生1人では目が行き届かない活動場面や様々な特性をもつ子どもたちにとって、ボランティアの方がタイミングよくほめたり、支援したりすることによる教育的な効果の大きさ等、貴重な話をしていただきました。



## 第2回

### 振り返りより みなさんの声 どどーんと紹介



- ・ボランティアさんが、いきいきと子どもたちに接されていました。
- ・川崎小の雰囲気はとても温かく、子供たちも笑顔ですてきな学校でした。
- ・ひとつ、大人が手を出しすぎているような印象だったので、もう少し辛抱強く見守る姿勢も大事だと思いました。
- ・必要以上に口出し、手出しをしない。
- ・少しずつ進んでいくと子どもたちも自信を持ってきて、面白くなっていく様子でした。
- ・和裁は洋裁より大変でした。でも、子どもたちはがんばっていました。
- ・難しさを実感してしまいました。いろいろなスキルを身につけていかないと子どもたちに教えることはとても大変かなと思いました。しかし、子どもは素直でかわいいですね。
- ・活動する前に予習をし、理解していないと教えることができないし、頼られなくなってしまいますので、よいアドバイスができるようになりたいです。
- ・3人グループに1人、ボランティアさんがついていましたが、それでも足りない場面もあった。市内全体で同時期に同じような活動をする時、ボランティアの人数は相当数必要になってくると感じた。
- ・どんなふうに出せばいいのか考えさせられた。
- ・すっかりほめることを忘れてしまいました。
- ・何があっても臨機応変に対応できるボランティアになりたいと思いました！
- ・見守ってあげたかったのですが、無造作に手助けをしてしまいました。自分がしてあげられることを少しでも出来たらうれしいです。
- ・ボランティア側の事前の準備・把握がとても必要だと感じましたが、一方で、サポートする側と子供達が失敗しながらも進んでいく姿に、常に笑顔のある状況ですばらしいと思いました。

